

演 題 (事務局 記入欄)	郡上ケアマネジャー連絡会における多「業」種連携
	発 表 者 川嶋 志友生 (岐阜県 郡上市健康福祉部高齢福祉課) 共同研究者 西脇麻菜美 松下奈都子 安田幸二 松井隆浩 (郡上市地域包括支援センター) 後藤明親 山口祐子 三島理香 山下五月 竹下真由美 (郡上ケアマネ ジャー連絡会 各チームリーダー)

【スライド1】

郡上ケアマネジャー連絡会における
多「業」種連携

郡上市地域包括支援センター
社会福祉士 ○川嶋志友生 西脇麻菜美
松下奈都子 安田 幸二
松井 隆浩

郡上ケアマネジャー連絡会 (各チームリーダー)
後藤 明親 山口 祐子
三島 理香 山下 五月
竹下真由美

郡上市地域包括支援センターの川嶋と申します。
 それでは、郡上市の「郡上ケアマネジャー連絡会に
 おける多業種連携の取り組み」について発表させて
 いただきます。

【スライド2】

背景

- 当センターでは、ケアマネジャーのネットワーク構築や実践力向上などを目的として組織された「郡上ケアマネジャー連絡会」の活動を支援している。
- 同会において、令和元年度はケアマネジャーが実践の中で感じた地域課題解決のための事業計画を作成し、令和2年度はその実施に取り組んだ。

郡上市地域包括支援センターでは、支援が必要な高
 齢者が地域生活を継続していくための環境整備の一
 つとして、郡上ケアマネジャー連絡会の活動を支援
 しています。
 令和2年度は、ケアマネジャーが実践の中で感じた
 地域課題を解決するために、多業種、多機関と連携
 した活動を展開しました。

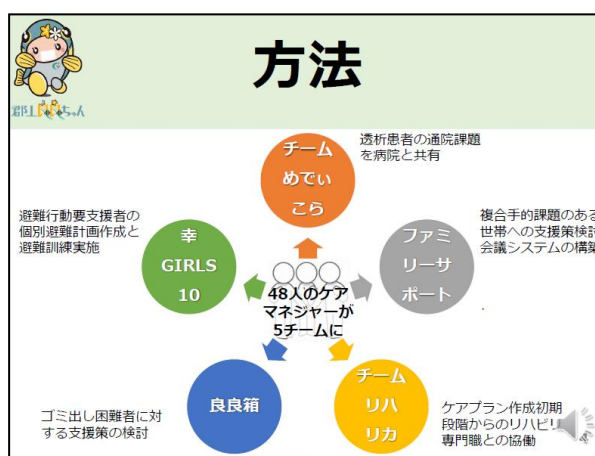
【スライド3】

目的

- 令和2年度に郡上ケアマネジャー連絡会が取り組んだ地域課題解決のための事業計画実践において、多業種と連携した活動を振り返りその成果を検討する。

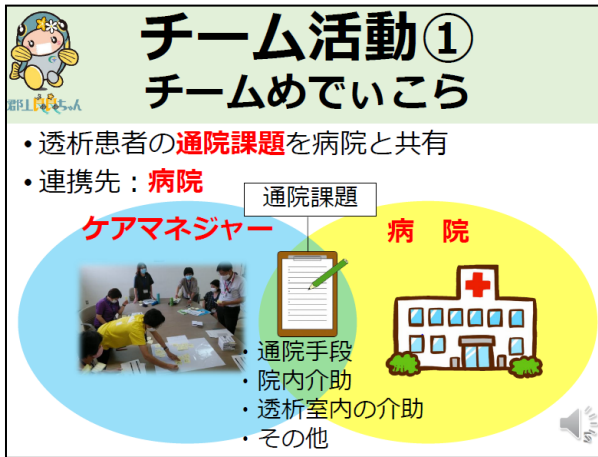
まずは目的です。
 令和2年度に郡上ケアマネジャー連絡会が取り組ん
 だ地域課題解決のための事業計画実践において、多
 業種と連携した活動を振り返り、その成果を検討す
 るとしました。

【スライド4】



次に方法について説明します。
 今回、連絡会の会員である48名のケアマネジャーが、事業所の枠を越えて課題別に5つのチームへ分かれて活動しました。
 次スライドから各チームの活動内容を紹介します。

【スライド5】



チーム活動①
チームめでいこら

- 透析患者の**通院課題**を病院と共有
- 連携先: **病院**

ケアマネジャー **病院**

通院課題

- 通院手段
- 院内介助
- 透析室内の介助
- その他

1 チーム目 「チームめでいこら」です。

市街地から離れた地域に住み、車の運転と歩行困難な透析患者が、安心して自宅で暮らし続けられるよう、通院に係る現状と課題を血液透析をおこなう市内医療機関1か所と共有しました。

まず、課題を共有し解決していく方法として、「地域円卓会議」についてオンライン研修により学びました。また、円卓会議開催の準備として、現状を知るために医療機関に対し「通院介助について」「院内介助について」「透析室内での介助」「その他の事項」の4つの場面に分けて質問状を送り回答を得ました。会議の開催までは至りませんでしたが、医療機関側も透析通院の課題についてケアマネジャーと同様に課題を感じていることが分かり、解決へ向けた可能性を感じることができました。

【スライド6】



チーム活動②
ファミリーサポート

- 複合的課題がある世帯への**支援策検討会議システム**の構築
- 連携先: **障がいの相談員**

ケアマネジャー **障がいの相談員**

支援策検討会議システム

＜会議システムの構築＞

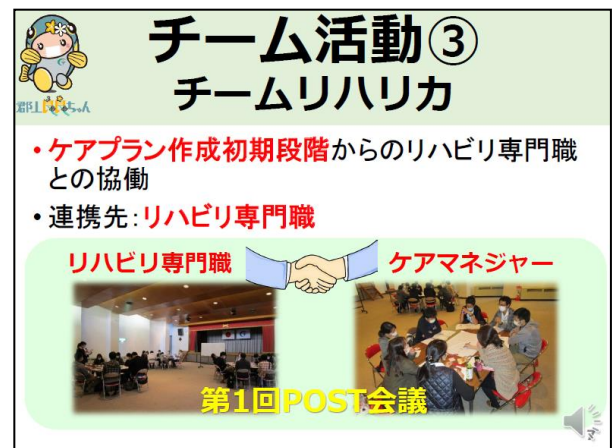
2 チーム目 「ファミリーサポート」です。

障がいの子と要介護の親の世帯など、複合的課題のある世帯が、地域で支えられ暮らし続けられるよう、障がいの相談員等と協働し会議システムの検討をしました。

チームメンバーの担当する利用者に協力してもらい、実際に会議を2回開催しその都度検証することで、会議開催の手順書の不具合を確認しながら見直し完成させることができました。

また、検証する中で新たな課題として、障害福祉制度についての知識不足があることが分かり、研修会を開催して理解を深めたり、障がい相談員へのアンケート実施等により、障がいの子を支援する側も親のケアをしているケアマネジャーとの連携を望んでいることが分かりました。

【スライド7】



チーム活動③
チームリハリカ

- ケアプラン作成初期段階**からのリハビリ専門職との協働
- 連携先: **リハビリ専門職**

リハビリ専門職 **ケアマネジャー**

第1回POST会議

3 チーム目 「チームリハリカ」です。

下肢筋力が低下し歩行不安定な利用者に対し、リハビリ意欲を引き出すプラン作りができるよう、リハビリ専門職と協働するシステムを検討しました。ケアマネジャーがリハビリテーションを取り入れたケアプランを作成する際の課題としては、サービスの導入をする前にリハビリ専門職の意見を聞く機会が無いことだったことから、リハビリ専門職とそういった機会を作るためにはどうすれば良いか、一緒に考えてもらう場として「POST（ポスト）会議」と銘打った会議を開催しました。日頃、顔を合わせることや、しっかりと意見を交換することが無かったリハ職とも意見交換すること

ができ、具体的なシステムの構築までには至らなかったものの、関係性の基礎作りはできました。

【スライド8】



チーム活動④ 良良箱

- ・**ゴミ出し困難者に対する支援策**の検討
- ・連携先：**民生委員・市役所環境課**



ケアマネジャー
民生委員・市環境課

4チーム目 「良良箱（ららばこ）」です。
ゴミ出しに困難がある認知症の独居高齢者が気兼ねなくゴミが出せるよう、民生委員や市環境課からゴミ出しの現状についてヒアリング等をおこない、ゴミ出しに困る高齢者の支援方法について記載した、ゴミ出しのHOW TOを作成しました。
情報収集の結果、現時点では、支援が必要な高齢者が想像していたよりも少ないようであることが分かりました。しかし、市内でもゴミの集積場所の状況が、アミやカゴなど違いがあることが分かり、それによって課題も変わってくることや、ゴミ出しに困る高齢者世帯の相談先として、ケアマネジャーが対応にあたる機会が多いことが分かったことから、利用者の状況に合わせた対応方法を冊子としてまとめました。

【スライド9】



チーム活動⑤ 幸GIRLS10

- ・避難行動要支援者の**個別避難計画作成**と地域住民を巻き込んだ**避難訓練**の実施
- ・連携先：**自治会、市議会議員、民生委員、市役所社会福祉課、地域振興事務所**



避難所

ケアマネジャー、自治会、市議会議員、民生委員、社会福祉課、振興事務所、地域包括支援センター

5チーム目 「幸GIRLS10（サイガールズテン）」です。

自力で移動できない高齢者が、災害時、適切な時期に安全な場所に避難できるよう、実際の要介護高齢者1名に対し、個別避難計画の作成と、自治会、市議会議員、民生委員、社会福祉課、振興事務所と協働した避難訓練を実施しました。
市の災害時避難行動要支援者対策の現状に合わせ、ここにケアマネジャーがどのように関わるか関係者の意見を聞きながら活動しました。個別避難計画の作成やその利用者が避難先で快適に過ごすためには避難所がどうあると良いか、避難訓練を計画に合わせて実施することで検証し、参加した各者が感じた課題とその改善に向けた取り組み案をアンケートにより収集し、「自助・互助・共助」に分類しまとめました。

【スライド10】



結果

多様な関連部局・機関との
「顔の見える関係やネットワークの構築」など協働・連携の土台づくりができた。

以上の5チームによる活動を展開した結果、多様な関連部局・機関との「顔の見える関係やネットワークの構築」が図れ、今後の協働・連携の土台づくりができました。

【スライド11】



具体的な成果

- ・関係機関と現状・課題を共有し、相互理解が促進された。
- ・リハビリ職とケアマネジャーの更なる連携システムの展望が共有できた。
- ・地域ケア会議の一つとして複合的課題がある世帯への支援策検討会議が位置づけられた。
- ・ゴミ出し支援検討チームが作成したHOW TO冊子がケアマネジメントで活用された。
- ・要支援者の個別避難計画作成と避難訓練との活動が災害時避難行動要支援者対策における市全体の活動に活かされた。

主な成果としては・・・

- ・複合的な世帯の支援に係る会議システムが市の地域ケア会議事業の仕組みとして位置づけられた。
- ・ゴミ出しに係る HOW TO 冊子が実際のケアマネジメントに活用された。
- ・災害時避難行動要支援者対策において、市議会議員や防災部局の関心を寄せ、協働へ向けた足がかりとなった。

といった成果がありました。

【スライド12】



結論

本活動を通じて、ケアマネジャーが地域づくり活動を、多「業」種と協働して行うことの**有効性**と**可能性**を確認できた。



最後に結論です。

本活動を通じて、ケアマネジャーが実践で感じた課題を基に、地域づくり活動を多「業」種と協働して行うことの有効性と可能性が確認できました。以上で発表を終わります。ありがとうございました。